可視化と体験化の双方で存在感

来場者が新感覚シミュレーションに魅了

CES2026で技術力を総合発信

幅広い分野に展開するツール

「来場者からは，鋭い質問もあり真剣に見てくれていることを感じる。日本からの来場者も増加を感じ良い傾向」と手応えを示すフォーラムエイトの伊藤裕二社長

フォーラムエイトは、1月6―9日の４日間、米国・ラスベガス（ネバダ州）で開催されたテクノロジーの祭典『CES2026』に出展した。多様な企業が社会に適応できる技術を持ち込む年頭の注目イベントは、今回14万8000人以上を集めた。フォーラムエイトは、連続してCESに出展し、同社のツールが幅広い分野のシミュレーションに応用できること、またAIを使った描画が自由な発想を拡張することを来場者に強く印象づけた。

民生技術の祭典CESでは、近年「開発・製造のための技術と製品」に焦点が当てられている。シミュレーションや、その結果の可視化、そして体験化は大いに注目される技術となっている。フォーラムエイトは、可視化と体験化の双方で存在感を見せている。

最新技術を通じ社会的要請にも対応

CESの中心会場の１つ、ラスベガス・コンベンションセンターのセントラルホールは、以前は家電が展開される場所だったが、近年状況は大きく変化している。改装が終わったセントラルホールは、明るい廊下を経てサウスホールに向かうことができる。以前よりも通路は広くなり、ここを行き交う人々は目に見えて増えた。

改装の恵みを受けアクセスが改善された「ゲーム・XR」エリアは、従来にも増してにぎやかな場所となった。ここには、HMD（ヘッドマウントディスプレー）やピンボールマシンなど多様な機材が出展されている。

その中でも、ダイナミックな動きのある展示物でひときわ人気を博していたのが、フォーラムエイトだ。体験型展示で注目を集める同社のブースは、人だかりが絶えない。

ブース正面に置かれた「360度宇宙遊泳体験」は、VR用HMDを装着しイスに座り、映像に合わせて宇宙遊泳を体感する。昨年の大阪・関西万博に期間限定で出展されたものだ。

加えてもう1つ、万博に出展された体験型デモが「月面ドライビングシミュレーション」である。こちらは、月面の低重力環境での運転を体感できる。来場者は、通常の運転とは異なる感覚を楽しんでいた。

モーションライドとは別に、高精細のマンガ風画像を生成できるAI「F8―AI Manga」も出展された。このソフトウエアの応用は、セミナー形式で来場者に伝えられていた。

セミナーでは、その場で説明員を撮影した画像から、本人の雰囲気は残しつつも、マンガ風の〝イケメン〟となった絵が生成され、聴衆の喝采をさらっていた。マンガ風であっても、背景はCESの会場を感じさせる忠実度を持ったもので、人物以外も扱えることが印象づけられていた。

AIによるマンガとデザインの支援ツールは、かわいさや忠実度などの要素を利用者が指定でき、同じ素材からさまざまな画像を生成できる。

★社会的要請を反映

フォーラムエイトの伊藤裕二社長は「マンガ風画像の生成では、性的表現はできないなどの配慮をしている」と社会的要請に対応しつつ、技術を伸ばしている状況を語った。

同社はNFT（Non-Fungible Token―代替不可能なトークン）によるコンテンツ管理にも熱心である。独自開発したNFTサービス「まじもんF8NTS」を用いて、NFTの一括管理をする。コンテンツクリエイターは、NFTを用いて作品管理ができるほか、マネタイズにも応用が可能だ。

同社はメタバースへの対応にも注力しており、伊藤社長は「メタバニアF8VPSにより、メタバース内でのイベントが開催されている」と浸透を語った。この製品を用いて、大学のキャンパスや施設の紹介を実施している。

フォーラムエイトのブースには性別・年齢に関係なく、多くの人が月面運転や宇宙遊泳を体験するために列を作った。今回のCESについて、伊藤社長は「日本からの来場者が増えた感がある。よい傾向と感じている」とポジティブな感想を語っていた。

大人気の宇宙遊泳体験は常に行列ができていた。大阪・関西万博では5万7000人以上が宇宙遊泳体験を楽しんだという

月面運転シミュレーションは、1/6の低重力環境を忠実に再現しており、挑戦者達はハンドルさばきに苦労しつつ月面車を操縦していた

フォーラムエイトがブースを構えたLVCCセントラルホールの「ゲーム・XRエリア」は、ホール改装によりアクセスが格段に改善され多くの人が訪れていた

漫画風AI生成などのデモもクリエイティブの幅を拡張

AIによる写真の漫画化は、その場で■イケメン■が出現し、喝采をさらっていた